

P13

小児歯科専門医院へ来院中の保護者の意識変化
――アンケート調査をもとに――

○毛利 元治

もうり小児歯科（福岡市）

演者の医院は、小児歯科専門として開院して28年が経過した。その間、保護者の意識を知るためアンケート調査を行い、医院運営の参考にしてきた。昨年もアンケート調査を行ったので、その結果を報告する。

対象は、平成22年1月～9月の来院患者で、初診から3ヶ月後も受診した214名である。回答は無記名、郵送回収で、156名(72.9%)から回答を得た。

- 1) 子どもの年齢は1才から18才に渡り、回答者の90%を母親が占めた。
- 2) 初診年齢は56%が3才以下で、97%が定診中か定診待ちだった。
- 3) 待合室の備品希望は86%が満足だが、新しい本の希望も8%あった。
- 4) 受付の患者向け資料や過去のアンケートをよく見るのは10%に過ぎず、たまに見る62%、見ないが26%だった。
- 5) 習い事をしている子は64%で、その多くは週1～3回だが、週7日も2%いた。
- 6) 食べ方の質問に、問題ないが28%、かまわない32%、1口量が多いが21%だった。
- 7) 食事時の水分摂取は、食事中も飲む38%、食後だけが41%を占めた。
- 8) 食べ方練習（スプーン捕食）を続けているが40%、続けるのが難しいが33%、聞いていないが19%だった。
- 9) 小学生まで仕上げみがきは、77%が続け、19%が困難と答えた。
- 10) フッ素塗布料金1000円を60%がちょうどよい、30%が高いと答えた。
- 11) 診療室の保護者入室は、よかった81%、入室せずよかった12%だった。
- 12) 2才以下のレストレーナー使用に、74%が同意、16%が仕方ないと答えた。

P14

母親の子育てに関する意識調査

○久留美香、柏木伸一郎、楠田理奈、
山本雅子、岩男好恵（小児歯科 柏木医院）

【目的】

日常の臨床で保健指導や処置を行う際には、母親の子育てに対する考え方に配慮した対応が望まれる。そこで母親の子育てに関する考え方や意識を知る目的で、アンケート調査を行った。

【方法及び対象】

患児が定期的に当院を受診している母親の内、3歳から9歳の第1子を持つ者を対象とした。調査は、無記名による自記式質問用紙を用いた。質問項目は、チェアサイドでは聞くことの出来ない、子育てに対する母親の悩みや解決法、及び子育てをする上での考え方を問う内容とした。

【結果】

- 1、悩みに関する質問では、しつけについて悩みを抱えている者が多かった。さらに年齢別に見ると30代の母親に精神的余裕がある傾向が伺えた。
- 2、悩みを解決する方法では、「身近な人に相談する」者が最も多く、若い母親ほど家族に相談する割合が高かった。
- 3、しつけの場については、家庭以外でも期待している者が多かった。
- 4、親子間の主導権を問う質問では、主導権を親とする割合が高かったが、子どもに流されやすい親もいることが分かった。

【考察】

今回のアンケートを通して、子育てに関する母親の考え方を知ることが出来た。また母親の年代によって育児姿勢が異なる事が分かった。ただ今回の調査では、子育てに対する歯科医院としての具体的なサポート内容までは、明らかにすることが出来なかった。

今後は、この点に関し母親のニーズの把握等、更なる調査を進めていきたい。